



罹災した拠点、戻る目途が立ちました！

理事長 西田 良枝

3月11日の大震災で液状化した浦安。「とも」は市内でも特に被害の大きな地域にあったため、拠点が全壊となり、仮設の事務所での運営となっていたことは、「とも通信・震災号」から何号かに渡りお伝えしてきたとおりです。

「とも」としても、再建に向けて最大限努力すべく、震災における公的な補助金を含めて申請を進めてきましたが、結果、公的な補助金はすべて却下されてしまいました。一般の家屋に適応される補助金が、事業目的の建物では対象にはならないことはすべての業種に言えることです。しかし、障害者自立支援法など国の制度による福祉事業を行っている事業所を対象とした補助金さえも、通所施設や入所施設の建物被害は対象になっても、「とも」が行っている障害者のホームヘルパー事業や相談支援事業の事務所の建物被害は、対象にはならないとのことでした。

これについては、同じ法律や制度に基づく事業所であること、地域で暮らすためには欠かせないホームヘルパー事業や厚労省が地域生活の要と言っている相談事業が対象にならないのはおかしいのではないかと補助金の担当窓口である県庁の担当の方にお話をしました。担当の方は私たちの投げかけにご理解をくださり、千葉県庁では申請を受け付けてくださったのですが、結果は国で却下となってしまいました。

「とも」の拠点はJRの高架線の下にあり、JRの有効土地利用としてJR都市開発(株)から借り受けています。建物もJR都市開発が基礎・躯体工事と外装をし、スケルトンで引き渡され、内装は「とも」で行うことになっています。賃貸ではありませんが、内装はすべて「とも」の造作であり、資産計上されています。建物の登記はJR都市開発がしていますが、契約書の中にそれぞれの部分の部分がわかれて記載されています。このようなことで、実際には自分たちが建てた建物と考えていたので

すが、国からは「法人名義での登記がない」との理由で「対象ではない」と却下されてしまいました。

実態もあり、契約書にも書かれているのに…。この浦安の中で大きな資産を持たず、ケアを必要としている人のニーズに沿って法人を立ち上げましたが、何より浦安市は土地も高く、土地を手に入れて建物を自前で建てるなどとても難しい状況。相談事業は、国の基盤整備事業で補助金をいただき整備した建物だったのに、それを震災で失っても、まったく支援がされない…という絶望感は大きくありました。

そもそも、国の被災に関する補助対象の中に、通所施設や入所施設の建物以外が外されていることにも、無念さが残ります。

そのような中で、実態を伝えることで理解を示してくださった県の担当の方や、公的な支援が全くない中で、民間の補助金を紹介や推薦をしてくださった方、ご寄付など金銭的な支援をくださった方など、ほんとうに多くのおみなさまから、たくさんのご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

震災では建物を失っただけでなく、事業を運営するうえでの、多くの不便や負担を蒙ることとなりました。その上に、補助金を申請するための多くのやり取りや負担をさらに負いながら、がっかりする状況の中、支援が必要な人が地域で生きることの大切さを知る皆さんからのご支援は、ややもすれば気力を失いがちになる私たちのエネルギーの源となっています。

「とも」の拠点の再建は、予約契約を終え、11月1日から着工することとなりました。来年2月の終わりごろには、新しい建物を拠点としてスタートを切ることができそうです！今後とも変わらぬご支援をよろしく願い申し上げます。

「さよならパーティー」

浦安市の主催で、2008年8月18日から23日までの日程で行われたオランダ・スウェーデン視察ツアーの報告も、3年間の連載でようやく最終回。締めくくりのさよならパーティーとなりました。

スウェーデン視察の現地通訳をしてくださったJ・Sさんが、帰国前夜にホームパーティーを開いてくださいました。ご自宅は湖畔の広々とした敷地に建つ豪邸で、20人がテーブルに着くことができる広いリビングで行われ、Sさんご一家の友人たちも来て下さいました。その中に、地元の障がい者団体の役員をしている、視覚障がい者のスベンさんとウルフさんもいました。視察中は、障がい当事者の方やご家族のお話をお聞きする機会がなかったことを残念に思っていたので、スベンさんと席が隣同士になったことを幸いに、いろいろとお聞きしてみました。

まず、「統合教育」についてお聞きしてみました。スウェーデンの教育は、想像よりも障がいのある子どもが分けられているように感じたからです。「障がいのある子が、通常の学級で教育を受けるのがよいと思う。子どもは素晴らしい存在。大人が偏見を教えなければ、子どもは、同じクラスであれば人種の違いや障がいの有無に関わらずクラスの友だちになれる。障がいのある子が別のクラスになって、変な子と思われることを危惧する。」「いろいろな考えがあると思うが、親が通常学級を選ばないのは、通常学級への財政的援助が足りないからではないか。トレーニングスクール（日本の特別支援学校）にかけている財政的援助を通常学級に行わない理由が分からない。」ということでした。日本と同じような課題を抱えていることを感じ、とても共感しました。

視覚障がい者の抱える問題としては、「就職できないこと」を挙げていました。「視覚障がい者の70%が失業しており、少



ホームパーティーが開かれたステアさんの自宅

ない年金では生活が苦しい。自分は、ミュージシャンと文筆業を仕事にしているが、2人の子どもの12歳から18歳までの間は、すべての面で大変だった。スウェーデン人は、夫婦で働かないと生活できない。」とっていました。

また、「今、スウェーデンでは、障がい者福祉も含めた社会保障を改悪しようとする動きがある。スウェーデンもアメリカ的になってきて、連帯よりも個人の所得を、という

考えが広まって来ている。どう対抗したらいいかわからない。障がい者が自分の家族にいることを考えてみたら分かると思うのだが。」と嘆いていました。パーティーに来ていた精神科のドクターに、このことについて尋ねてみたら、「社会保障の見直しはした方がいいと思う。税金を下げ、個人の使える所得を増やす方がいい。」という意見で、複雑な気持ちになりました。



スウェーデン名物のザリガニ料理

浦安市視察団・団長の松崎市長は、羽織袴の純和風スタイルで参加されました。視察へのお礼のご挨拶で、「スウェーデンから目標とされる浦安市にしたい。」と、決意を述べられ、大きな拍手を浴びました。参加させていただき、沢山のことを知ることができ、体験することができて本当によかったと思います。ぜひ、またこのような機会があると良いなと心から思います。ありがとうございました。



スベンさんと堅い握手



スベンさんと松崎市長

震災後、ともの歩み。

東日本大震災から7か月がたちましたが、ともの本部があった場所ははまだ更地のままです。

再建に向け皆様に寄付をお願いしたり、いろいろな助成金に申し込んだりしていますが、星の数ほどある被災地支援の中から事務所再建への助成を探すのは意外と大変な作業です。そんな中、関西の事業所の方から教えていただいた「ゆめ風基金」、懇意にさせていただいている大学の先生に紹介していただいた「清水基金」、以前「とも」の活動を見学に来て下さった厚生労働省の方に推薦していただいた「フィランソロピー協会助成金」、とも通信の被災号を見てくださった中山馬主協会様の助成金に申し込ませていただきました。残念ながら



本部跡地

実を結ばなかったものもありますが、結果を待っているものもあり、皆様の心配してくださる気持ちと支援に支えられていることを実感しています。

また、皆様からのご寄付は金額の多少にかかわらず、その気持ちが嬉しく励まされています。「少いで申し訳ないけど」「テレビの修理に使うつもりだったけど」「うちも傾いているけど」そうおっしゃりながら差し出してくださる寄付金は、お金の重みよりも気持ちの重さがずしりと響きます。

とも通信を見て助成金を紹介してくださったり、ご寄付を申し出てくださった方々に、この場を借りてお礼申し上げます。皆様に支えられて復興を目指す「とも」を今後もご支援ください。よろしくお願い致します。

■＜パーソナル・アシスタンス とも＞ 震災後の経緯 (2011.7.1～2011.10.31)

日付	建物 / 活動内容	サービス
7/11	中山馬主協会へ助成金を申請	
7/20	フィランソロピー協会へ助成金を申請	
7/22	ほっぷ周辺の排水溝の泥詰まりにより、トイレ詰まり、厨房の排水溝から逆流	
7/25	ゆめ風基金へ助成金を申請	
7/26		浦安市24時間対応の定期巡回・随時対応サービス事業開始(国のモデル事業)
7/27	ほっぷ下水管工事(障害福祉課に依頼)	
7/31	清水基金へ助成金を申請	
8/1		・居宅介護支援事業 ・訪問介護事業 ・福祉用具及び医療機器貸与・販売事業の事業所所在地を今川4-1-4に変更
8/18		浦安市夜間安心訪問ヘルプサービスの拠点を一時ケアセンターから本部会議棟に移す
10/1		障害福祉サービスに新たに追加されたサービス「同行援護」を開始



寄付金のお願い

引き続きご支援をお願いいたします。

- 寄付金振込先 -

京葉銀行 新浦安支店 普通口座 5429332
 口座名義：社会福祉法人
 パーソナル・アシスタンスとも
 理事長 西田良枝

ともの今日

24 時間対応定期巡回・ 随時訪問サービス



国のモデル事業として、24 時間対応で定期巡回サービスと通報システムによる随時対応サービスを提供し、高齢者が住みなれた地域の在宅で安心して生活を継続するための効果的なサービス提供のあり方についての検証を行うことを目的に、平成23年7月から24年3月までの期間限定ですが、調査研究事業をスタートしました。

もともと22：00から翌朝6：00までは浦安市の夜間安心訪問ヘルプサービス事業を行っていたので、これに加えて朝6：00から夜22：00までをカバーすることで、24時間体制でオンコールを受けることとなりました。

利用者さんによっては、これまでヘルパーさん

が来るまで排泄を我慢しなければならなかったり、車イスやベッドから転倒転落しても次のヘルパーさんが来るまでそのままいなければならなかったものが、呼べば来てくれるという安心を得られたことは何より良かったことだと思います。

この事業は高齢者対象の調査研究事業ですが、24時間体制が必要なのは高齢者ばかりではないので、障害者も含め誰もが住みなれた地域で暮らし続けられる地域社会になるよう、国の制度に繋がっていきたいと思います。

【パーソナルケアセンター 杉田】

〈編集後記〉急に寒くなってきました。鍋や焼き芋が恋しい季節です。ほっぷでも11月から安納芋の焼き芋販売を始めますので、お楽しみに！【M】